

## 近世中後期の興福寺中金堂再建計画

金堂二十歩一（木興修三家所蔵）

享保の興福寺火災後、再建計画図として描かれたと考えられる図面。

縮尺は1/20で、桁行および梁行断面を一図に表現している。

本文26～27頁参照（撮影／中村一郎）

### 金堂梁行上ノ重小屋指図 貳拾歩一

（部分、木興修三家所蔵）

上図の計画と一連の梁間断面図。縮尺は同じく1/20であるが、小屋組を詳細に描き込み、部材寸法などがよくわかる。また、軒先端部に栝木をつり上げる金具を入れたり、二段目の栝木と下段の尾垂木をつなぐ斜材を入れるなど、構造補強への具体的な配慮がみられる。

# 1999年度の調査・研究から

## 漢長安城桂宮3号建築遺跡の調査

### 調査区全景（南西から）

南北両端にそれぞれ大規模な版築基壇がみえる。両基壇の間、版築の隔壁によって仕切られているのが倉庫群である。  
本文6～7頁参照（撮影/牛嶋茂）

### 平原遺跡(福岡県)出土の青紺色ガラス連玉

### 塚積排水暗渠（西から）

倉庫7の床面下約1mで検出した塚積排水暗渠。天井部分を上から見下ろしたもの。子母塼をアーチ状に組んでいる様子がよくわかる。

### 顕微鏡写真（上）とCRイメージ画像（下）

二種類の異なる径のガラス管を重ねて、加熱しながら絞り込むように拵んで制作された。内側には気泡を多量に含むガラス管が、外側には気泡をほとんど含まないガラス管が使用された。

本文32～33頁参照